

建築学教室創立 100 周年記念事業報告（3）国際ワークショップ

神吉紀世子（平成元）

建築学教室創立 100 年を記念する事業として、留学生として卒業・修了した同窓生が集まる国際ワークショップを企画しました。世界各地で元留学生の同窓生が活躍しているものの、分野や卒業・修了年を超えて、相互に積極的につながる機会がもっとあるべきではないか、現役の学生・院生も世界にいる先輩とつながるきっかけがあるべきではないか、等のアイデアがあったためです。そこで、少しずつ卒業・修了年次が異なり、分野が異なる 4 名のパネリストに参加を依頼しました。司会は企画発案者の 1 人である神吉、コーディネーターには京大を定年退職された後東南大学（中国）で教授をつとめられ日々国際共同に携わっておられる銚井修一先生（昭和 48）にお願いしました。

パネリストは、

- ・李永輝／Li Yonghu（中国・東南大学，平成 22 博（環境系））
- ・Siwaporn Klinmalai（タイ・タマサート大学，平成 26 博（計画系））
- ・Sachi Hoshikawa（米国・Miliu LLC，平成 9 修（計画系））
- ・Mahdi Raouffard Mohammad（日本・大成建設，平成 30 博（構造系））

の 4 名で、本来は京都に招へいする予定で依頼し、4 名と銚井先生、神吉が登壇することからつながりを始める意図で準備していました。実際にはオンライン開催となったことから、8 月 28 日当日の以前に、オンライン・ミーティングを開催することとしました。時差がある中でスケジュールを揃えることは容易ではなく、7/9、7/11、7/21 にわけ、銚井先生と神吉は全回に参加しミーティング記録も全員共有できるようにして、ワークショップでの議論の内容についての相談や現在の活動などについて互いを知るようにしました。3 回分の日程調整等でメールのやりとりが頻繁になり、この時に登壇者同士の人間関係が近くなったように思われます。

4 名のパネリストからのプレゼンテーションの概要は次のとおりです。

李永輝氏 2007 年 10 月～2010 年 9 月に銚井研究室の博士後期課程に在学し、その後、東南大学の建築学部の教員に。同大学建築学部には京大建築を修了した先生が他に 3 名おられます。研究室での懇親や学外旅行の思い出、博士研究として高松塚古墳壁画の保存環境解析を手掛けたこと、さらに、現在は故宫博物院、南京の旧市街地を囲む城壁、等の貴重な文化遺産の劣化を防止し適切な保存環境を実現する仕事に従事している様子を紹介戴きました。

Siwaporn Klinmalai 氏 現在も教員をつとめるタマサート大学建築・計画学部から、2010 年に京大研究生になった後 2011 年 4 月～2014 年 9 月に神吉研究室の博士後期課程に在学、現在、タマサート大学デザインスクールの主担当としても活躍されています。在学中に友人となった各国からの留学生と現在も協力関係があり、京大との共同ワークショップも過去 2 回開催されました。今後、長期プログラムなどの京大とタマサート大学の特徴ある共同プログラムを発展させたいと提案されました。

Sachi Hoshikawa 氏 国費留学生として 1994 年に竹山聖研究室に來られ修士課程を 1997 年に修了され、その後、故郷のドミニカ共和国で建築実務に従事された後、米国ハーバード大のデザイン大学院でデザイン学・不動産学の修士を修められました。2013 年に米国ニューヨークで Miliu スタジオを設立されました。ベネチア・ビエンナーレやドミニカでの活動を含め、国際的なネットワークを様々に実現されています。ハーバード大の同窓会にも所属されていることから、オンラインでの同窓会活動の可能性や学生へのメンターシップ等を提言いただきました。

Mahdi Raouffard Mohammad 氏 故郷のイランで大学卒業後、2011 年に來日され 2012 年から西山峰広研究室に在学、2015 年に修士課程、2018 年に博士後期課程を修了されました。修了後は東京で大成建設に勤務され、神戸ポートミュージアムが同社内の京大 OB 技術者で手掛けた最近

作であることも紹介されました。京大来学当時の田中仁史先生、河野進先生、西山先生の印象深い助言、子ども時代の夢、地球と人を守る仕事をとの父の言葉、柔道の人生行路唯一の考え方、一生勉強は続くというフィロソフィーを語られました。Mahdi氏は東京から京都会場に来場されたので旧知の方々とも再会・挨拶され、対面の会合のよさが再確認されました。

4名のパネリストに、予想外に共通する論点がありました。その1つが、京大での在学時の研究室内に既にあった国際性（様々な国からの留学生と出会う）を含めて多くの友人たちと生活を楽しんだ経験を、大切な経験と挙げておられることです。全員が、それぞれ京都での四季を楽しむ懇親の機会や、様々な事業への参加、各地を訪ねる旅行などの写真をいくつも示して、Homeとしての京都大学、を強調されました。さらにもう1つ挙げられるのは、研究における自由度、主体性が重視されていることを挙げられています。修了後に様々に活躍する中で、京大で得た友人や先輩後輩と共同した特徴ある仕事を手掛けておられる様子が、印象的です。銚井先生から「京都大学が魅力的である、ということそのものが国際ネットワークに極めて重要だと再確認できた」とコメントがありました。

今後の京大建築会における、国際的な同窓生・学生交流の方向についても短時間ながら議論がなされました。京大で行われている研究、セミナー、展示などの情報が、同窓会とくに国際的な同窓生ネットワークに届くようにすることがその1つです。ハーバード大の同窓会では定期的にメールニュースが届く等の仕組みがあり、大学で行われている活動が現在進行形でわかりとても魅力的だとの紹介もありました。また、京大での生活を楽しむこと自体が重要だと若い学生に伝えたい、その日々が自分が将来どのようになりたいかを作っていくことになる、という意見もありました。

100周年を機会に、メーリングリストの整備も進展したことから、あともう少し海外にいる同窓生の連絡先を整備できれば、セミナーの案内等も届けやすくなると思われます。あと少し取組みが必要そうです。

オンラインの国際ワークショップは、時差のある中パネリストの協力で日本時間の午前10:30～12:00に行われました。南京は午前9:30、バンコクは午前8:30、ニューヨークは前日の午後9:30からの1時間半となりました。京都会場にいないオンライン参加のパネリストには事前にプレゼンテーションファイルをお送りいただくなど、多くの準備と協力をいただきました。京都に駆けつけてくれたMahdi氏は最後までプレゼンテーションファイルを工夫し、生き生きとしたストーリーでご講演いただきました。全体として90分と短い時間でのワークショップだったため、通訳については司会・神吉がZoomのチャットで概要翻訳(英語↔日本語)を同時翻訳記入して視聴者に届けました。

本来、京都に集うはずだったことから、今回の記念事業の際には、必ずパネリストの皆さんを京都に招へいするようにしたい、そして、今年度から、少しでも京大建築会の国際ネットワークが進展するように、何らかの次のステップをとりたいたとして、ワークショップを終了しました。

